



歴史館だより 令和4年秋号 Vol.15

発行：出水麓歴史館 鹿児島県出水市麓町10番39号 0996-68-1390

出水麓・この秋の行事予定

爽やかな風と紅葉、いよいよ出水麓にも秋の到来です。本館はじめ関連施設では、感染対策はもちろん、安心して楽しんでいただけるよう態勢を整えて皆様のおいでをお待ちしています。

1. 企画展『出水の石造物Ⅱ』

期間：2022年10月20日（木）～2023年1月17日（火）

9：00～17：00（ただし入館は16:30まで）

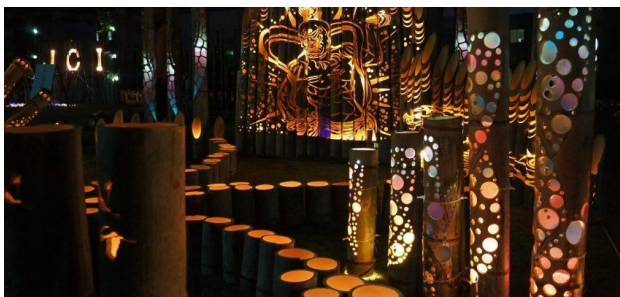
入場料：無料（ただし、常設展示室、およびVR体験は有料）

昨年開催した企画展『出水の石造物』の第2弾です。前回紹介できなかった貴重な石碑・石造物をパネルで紹介します。秋散歩、市内ドライブする前にぜひご観覧ください。（詳しくは本紙2面をご覧ください）



◆期間 令和4年10月20日（木）～令和5年1月17日（火）
◆休館日 毎月第3水曜日（11/16、12/21）
◆開館時間 午前9：00～午後5：00
（但し、入館は午後4：30まで）
◆場所 出水麓歴史館 多目的室
◆入場料 無料（※常設展、及びVR体験等は有料）
◆問合せ先 出水麓歴史館 ☎0996-68-1390

2. いづみマチ・テラス 2022



2022年10月29日（土）～11月3日（木）

*11月4日（金）～11月26日（土）は台湾の友好都市埔里鎮の巨大ドラゴンランタンの展示。

竹灯籠で秋の夜を演出。出水麓の夜の風情を家族みんなで楽しみましょう！

3. 出水麓体験の日



毎月第2日曜日（今年は10月9日、11月13日、12月11日）

着物体験、甲冑体験、牛車体験の日

*事前予約制、いずれも有料です。

問合せ先：一般社団法人 出水市観光特産品協会

（TEL：0996-79-3030）

その他、念願の武家屋敷宿泊施設「RITA 出水麓 宮路邸」が本格稼働を始めたほか、年度内には三原邸と護国神社の間に進められている日本庭園の整備が完了する予定です。気楽に楽しめるだけでなく、新しい「映えスポット」としてご利用いただけそうです！

企画展のご案内



企画展『出水の石造物Ⅱ』

期間：2022年10月20日（木）～2023年1月17日（火）

9：00～17：00（ただし入館は16:30まで）

休館日：毎月第3水曜日は休館日です。（11/16,12/21 休館）

場所：出水麓歴史館 多目的室

入場料：無料（ただし、常設展示室、およびVR体験は有料）



出水麓歴史館では、10月20日から令和4年度企画展「出水の石造物Ⅱ」を開催します。今回は昨年度開催した企画展「出水の石造物」の続編であり、前回紹介できなかった石碑や石像物を写真とともに解説します。

現在、出水市にはたくさんの石造物が残されていますが、前回と今回の企画展でも紹介できていないものも数多くあります。それらについては出水市教育委員会発行の「出水の石碑・石造物」の書物で出水地区の石造物が詳しく紹介されています。また、野田地区は「野田町の文化財」、高尾野地区は「高尾野町の文化財」の書物に石造物関連が記載

されています。この秋、これらの本を片手に石造物探しをされてみてはいかがでしょうか。



□下田仲助顕彰碑
（霧島神社内）

江戸時代、出水郷士の高尾野領内侵食に立ち向かい、境目をハッキリさせた人物の碑。



□木牟礼城碑
（高尾野町江内）

島津初代忠久が島津庄の下司として薩摩入りした際、中心となった城址。



□太閤石

（元の場所：下大川内下平野）

天正15(1587)年豊臣秀吉の島津征伐の際、出水に立寄った秀吉が下平野で座ったとされる石。江戸時代からそういう伝えが残っている。現在は出水麓武家屋敷群に移設されている。

フォトギャラリー（本館の活動紹介）



出水麓歴史館企画展「西南戦争と出水―史料が語る矢筈岳・出水麓の攻防戦」今回の企画展は、二回にわたり特別講演会を開催致しました。御聴講いただいた皆さま、お暑い中ありがとうございました。



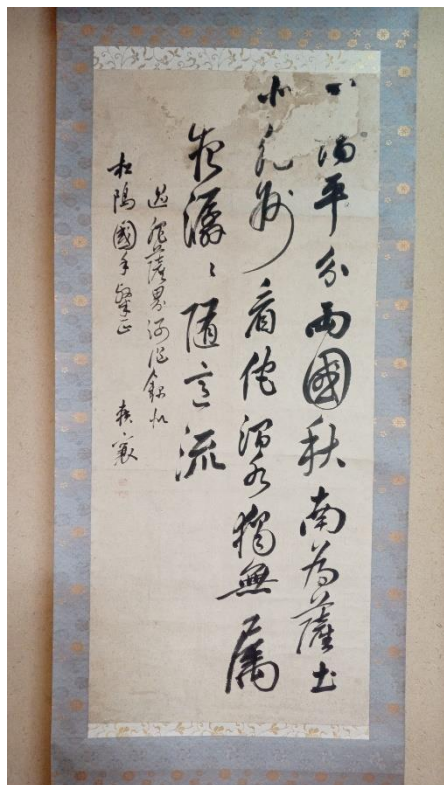
高尾野中学校 2年生の生徒さん3人が職場体験学習に来てくれました。お客様対応の練習風景です！少し緊張気味でしたが一生懸命頑張ってくれました。



伊集院高齢者グループの皆さまが来館してくださいました。伊集院と言えば”妙円寺詣り”。さっそく義弘公ゆかりの御仮屋門（現出水小学校正門）をご覧くださいました。

歴史発見

スクープ▶江戸時代の文豪、頼山陽が出水で書いた書軸を発見！



『鞭声粛々夜河を渡る…』で有名な頼山陽ですが、なんと出水を訪れて自作の詩を書き残しています。

1818（文政元）年9月7日の夕方、野間之関で追い払われたため、国境の農家に泊めてもらい、翌朝には無事関所を通過して、米ノ津の松島喜左衛門の家で一息つくことができました。その時酒を酌みつつ揮毫したのが左の書軸であると頼家にも松島家にも伝わっています。

『一陽平分両国秋 南為薩土北肥州…』の七言絶句です。一陽の意味がよくわかりませんが、後半は「国境を流れる境川の水がどちらの国にも属さないで思いのままに流れていることよ」という内容で、半独立国のような島津領内に何とか潜り込めた安堵感、解放感のようなものが伝わってきます。川の流れを山陽自身の自由な生き方に重ね合わせて詠っているのかもしれないですね。

さて頼山陽は幕末の志士たちに絶大な影響を与えた『日本外史』の著者でもあり、また、旅の帰りに大分の竹田に立ち寄り、「耶馬溪」の名づけ親にもなりました。

お友だちからのメッセージ

今回は、総合的な学習（Eタイム）「米東プロデュース」の一環として来館してくれた米ノ津東小学校6年生のお友だちからのお便りの一部を紹介します。

- その日は雨で服はびしょびしょでしたが、そんなことは気にならないくらいとても楽しかったです。特に歴史館のミニチュアはとても細かいところまでつくられていて、むかしの時代に入り込んだみたいでした。
- 何よりすごいのは昔の物が残っていることでした。昔の物を見ると、今はいろいろなものがあるなと思います。だから昔の物がずっと残せるようにがんばってください。
- 昔の武家屋敷ではおふろは外にあったということを聞いてとてもびっくりしました。今度は絶対牛車に乗りに行きたいと思います。
- 物がきれいに残っているので、出水の人たちが昔の物を大切にしているということがよくわかりました。これからも武家屋敷を大切にしてください。

◇たくさんのお便りありがとうございました。今度は晴れた日に遊びに来てね。

あとがきに代えて -----出水麓の植物④

栗 ブナ科クリ族クリ（日本栗） 学名 *Castanea crenata*

いきなりですが、栗は木の実（ナッツ）でしょうか、果物でしょうか。それとも野菜？（答えは文末にあります）。

日本の栗は、縄文の昔から全国各地で大切に栽培されてきました。米の代用食として、また縁起物として出水の武士団にとっても栗は身近な食材でした。「この晩（天正10年12月12日）、武庫様（義弘公）が義虎（出水城主）の宿を訪ねて、三献（三つの献立）にて食事をされた」（上井覚兼日記）と、『いずみ郷土研究』第30号に紹介されています。筆者の河野正彦氏によると、三献とは①打鮑（敵を討ち）②勝栗（勝って）③昆布（喜ぶ）の三種のことで、当時の武将たちは何かにつけ縁起をかつぎ、食事にも三献は付き物だったそうです。ただし、勝栗は正しくは搗栗（かちぐり）と書き、殻と渋皮を「搗（か）ちた」（棒でついてむいた）栗のことです。日本ならではの優雅な風習ですね。

最近、栗林はあまり見かけなくなりましたが、天津甘栗などむきやすい外国産の栗が出回っているせいでしょうか。でもやはり、栗ご飯は日本の栗でいただきたいものです。

*クイズの答え：栗はナッツでもあり野菜でもありますが、農水省では果物としています。

